



近畿ブロックのHIV医療体制整備

研究分担者 白阪 琢磨

(独) 国立病院機構大阪医療センター 臨床研究センター
エイズ先端医療研究部長

研究要旨

近畿ブロックには、全国の都道府県で2番目にHIV感染者・AIDS患者の報告数の多い大阪府があり、エイズ診療ブロック拠点病院（以下ブロック拠点病院）、中核拠点病院に患者の集中傾向がある。本研究の目的は、近畿ブロックのHIV診療レベルの向上と連携強化、歯科や精神科疾患、救急医療、透析医療、長期療養の診療体制の整備などの課題の解決に資することにある。方法は主に、（1）「近畿ブロックにおける中核拠点病院打ち合わせ会議」の開催、（2）研修会の企画および実施である。

各府県では中核拠点病院が中核となり診療が円滑に行われるようになってきている。その一方で、HIV感染症患者の一般医療への需要があり、拠点病院に加えて、一般の医療施設の参加が必要な状況であることが明らかになった。今後は、長期療養が必要なHIV感染症患者が、安心して療養できるような診療体制の整備が必要と考える。

【HIV感染者/エイズ患者の発生・受診動向と地域の研修ニーズ】

近畿ブロックには、全国の都道府県で2番目にHIV感染者・AIDS患者の報告数の多い大阪府があり、エイズ診療ブロック拠点病院（以下ブロック拠点病院）、中核拠点病院に患者の集中傾向があるが、各府県では中核拠点病院が中核となり診療が円滑に行われるようになってきている。その一方で、HIV感染症患者の一般医療への需要があり、拠点病院に加えて、一般の医療施設の参加が必要な状況であることが明らかになった。長期療養が必要なHIV感染症患者が、安心して療養できるような診療体制の整備が必要と考える。今後は、拠点病院のみならず二次医療機関との連携および研修会も必要であると考えられる。

A. 研修・教育の対象および機会設定の目的

近畿では、ブロック拠点病院だけでなく、中核拠点病院にも患者の集中傾向があるが、中核拠点病院は各府県のHIV診療における文字通り中核として診療が行われるようになってきた。HIV感染症診療の

質の変化に伴い、透析クリニック、精神疾患や要介護患者の受け入れ施設などが少ない事は新たな課題となっており、このような変化に伴った診療上の種々の課題に伴った研修会の実施が必要である。

B. 研究方法

研修・教育に用いた資料は添付の通りである。

C. 研究結果

平成28年度の研修会実施実績は添付の通りである。中核拠点病院および各自治体でも研修会が企画、主催された。今後も各病院が共通して抱える課題の解決に向けて、長期療養病院や精神科病院の他、在宅療養を担当する医療スタッフ、歯科医療機関、透析専門病院、若手医師への研修会などを実施していく必要がある。

D. 考察

研修・教育効果の評価方法と課題について、近畿

ブロックでは中核拠点病院や行政が積極的に研修会を開催し、一般医療機関や施設のほか、各職種に向けた研修会が数多く開催された。しかし、一般医療機関や長期療養施設の受け入れが進んだとは言えず、HIV感染症が治療による予後の著しい改善に伴う慢性疾患であるという認識の周知と、改善に向けたさらなる取り組みが必要と考える。

受け入れを躊躇する要因のひとつとして、抗HIV療法を継続するための経営上の問題（抗ウイルス薬は包括外で算定できるとしても、デッドストックの問題、針刺し曝露後の予防内服薬の配備など）から、事前の相談の段階で受け入れが進みづらい状況があるし、精神、救急などに課題がある。

診療の裾野を広げるためには、HIVの針刺し曝露への対応について周知をはかり、予防内服の配備の体制整備も必要である。自治体ごとで運用は異なるが、府県から各施設への配置が多かった。

E. 結論

近畿ブロックでは、中核拠点病院が各府県のHIV診療の中核を担うようになってきていた。今後もブロック全体で質の高い診療を続けるためには、人材の育成、病院間連携の強化が必要と考えた。歯科診療、精神科疾患、長期療養、透析、救急医療の診療体制の整備も重要な課題である。引き続き、拠点病院間の連携の強化、専門医の育成、さらに一般診療医との密な連携を伴ったHIV診療体制の構築が必要である。

F. 健康危険情報

なし

G. 研究発表

原著論文による発表

欧文

- 1) Koizumi Y, Uehira T, Ota Y, Ogawa Y, Yajima K, Tanuma J, Yotsumoto M, Hagiwara S, Ikegaya S, Watanabe D, Minamiguchi H, Hodohara K, Murotani K, Mikamo H, Wada H, Ajisawa A, Shirasaka T, Nagai H, Kodama Y, Hishima T, Mochizuki M, Katano H, Okada S. Clinical and pathological aspects of human immunodeficiency virus-associated plasmablastic lymphoma: analysis

of 24 cases. *Int J Hematol*. 2016 Sep 7. [Epub ahead of print]

- 2) Akita T, Tanaka J, Ohisa M, Sugiyama A, Nishida K, Inoue S, Shirasaka T. Predicting future blood supply and demand in Japan with a Markov model: application to the sex- and age-specific probability of blood donation. *Transfusion*. 2016 Sep 5. doi: 10.1111/trf.13780. [Epub ahead of print]
- 3) Ikuma M, Watanabe D, Yagura H, Ashida M, Takahashi M, Shibata M, Asaoka T, Yoshino M, Uehira T, Sugiura W, Shirasaka T. Therapeutic Drug Monitoring of Anti-human Immunodeficiency Virus Drugs in a Patient with Short Bowel Syndrome. *Intern Med*. 2016;55(20):3059-3063. Epub 2016 Oct 15.

和文

- 1) 白阪琢磨.HIV感染症/エイズ. 公衆衛生看護学 第2版 中央法規出版株式会社. 2016年12月.
- 2) 白阪琢磨. 自覚症状のないうちに進行するHIV感染—感染後10年ほど潜伏し、次第に免疫力が弱まるとエイズを発症します. 中学・高校保健ニュース. 1, 2016年11月.
- 3) 白阪琢磨. 患者を生きる: 3191 感染症 HIV5 情報編. 朝日新聞12版. 33, 2016年12月.
- 4) 白阪琢磨. HIV感染防止作戦 若い女性への拡がり懸念. 朝日新聞4版.13, 2016年12月.
- 5) 白阪琢磨. 抗HIV薬. 治療薬ハンドブック2017. 株式会社じほう. 2017年1月.

口頭発表

海外

- 1) Yagura Y., Watanabe D., Ashida M., Nakauchi T., Tomishima K., Togami H., Hirano A., Sako R., Doi T., Yoshino M., Takahashi M., Yamazaki K., Uehira T., and Shirasaka T. Relationships between dolutegravir plasma-trough concentrations, UGT1A1 genetic polymorphisms, and side-effects of central nervous system in Japanese HIV-1-infected patients. *HIV Drug Therapy Glasgow 2016*. October 23-26, 2016, Glasgow, UK.

国内

- 1) 白阪琢磨. 性感染症について. FM大阪ラジオ「HIV/AIDS啓発プロジェクト LOVE+RED」、2016年4月、大阪.
- 2) 伊熊素子、廣田和之、矢嶋敬史郎、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨. 新規HIV患者における受診およびスクリーニング検査に至る期間と転帰に関する症例対照研究. 第90回日本感染症学会総会、2016年4月、仙台.

- 3) 白阪琢磨. HIV/AIDS 基礎知識～医療と最新の治療について. 大阪府 平成28年度 HIV/AIDS 基礎研修、2016年5月、大阪.
- 4) 白阪琢磨. HIVの最新治療. 厚生科研エイズ対策研究事業 第12回 HIV サポートリーダー養成研修、2016年6月、大阪.
- 5) 白阪琢磨. HIV/AIDS の治療のトピックス. 第64回日本化学療法学会総会、2016年10月、神戸.
- 6) 白阪琢磨. HIV陽性者の人権課題～HIV、AIDS等の現状と課題～. 大阪府人権総合講座 人権相談員養成コース、2016年7月、大阪.
- 7) 白阪琢磨. HIV感染症の検査と治療の現状. 第40回日本血液事業学会総会、2016年10月、名古屋.
- 8) 白阪琢磨. HIV/エイズやハンセン病などの感染症と人権について. 大阪市平成28年度人権問題研修（管理者層）、2016年11月、大阪.
- 9) 白阪琢磨. 治療の手引き What's new. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
- 10) 中内崇夫、矢倉裕輝、富島公介、山本雄大、湯川理己、新井 剛、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨. HIV感染症患者に合併したサイトメガロウイルス感染症治療におけるホスカルネットナトリウム投与時の臨床検査値の変化に関する調査. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
- 11) 山本雄大、上地隆史、矢嶋敬史郎、渡邊 大、湯川理己、新井 剛、廣田和之、伊熊素子、笠井大介、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨. 多中心性キャスルマン病に類似した病状を呈して Kaposi Sarcoma Herpesvirus Inflammatory Cytokine Syndrome (KICS) が疑われた HIV 感染者の1例. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
- 12) 廣田和之、上平朝子、坪倉美由紀、田栗貴博、山本雄大、新井 剛、湯川理己、上地隆史、伊熊素子、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、爲政大綏、眞能正幸、白阪琢磨. 当院の HIV 感染者における MRSA による皮膚軟部組織感染症に関する後方視的検討. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
- 13) 上平朝子、矢倉裕輝、渡邊 大、富島公介、中内崇夫、新井 剛、山本雄大、湯川理己、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、笠井大介、西田恭治、白阪琢磨. 当院における Dolutegravir 中止例についての検討. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
- 14) 笠井大介、新井 剛、山本雄大、湯川理己、廣田和之、上地隆史、伊熊素子、渡邊 大、西田恭治、上平朝子、白阪琢磨. 当院医療従事者における HIV 陽性血液・体液曝露後の対応に関する検討. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
- 15) 渡邊 大、上平朝子、下司有加、蘆田美紗、鈴木佐知子、松本絵梨奈、新井 剛、山本雄大、湯川理己、廣田和之、上地隆史、伊熊素子、笠井大介、西田恭治、白阪琢磨. 当院の HIV 感染者における急性感染期での診断と診断前の受検行動関する後方視的検討. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
- 16) 竹花 惇、岡本 学、下司有加、中濱智子、東政美、鈴木成子、上平朝子、白阪琢磨. 外来受診中 HIV 陽性者の他院受診状況に関する質問紙調査. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
- 17) 戸上博明、矢倉裕輝、平野 淳、高橋昌明、吉野宗宏、阿部憲介、神尾咲留未、大石裕樹、竹松茂樹、垣越咲穂、山本有紀、伊藤俊広、山本政弘、水守康之、金井 修、内海 眞、渡邊大、横幕能行、白阪琢磨. UGT1A1 遺伝子多型のドルテグラビル血中濃度に及ぼす影響に関する研究. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
- 18) 富島公介、中内崇夫、矢倉裕輝、伊熊素子、渡邊 大、上平朝子、白阪琢磨. ドルテグラビルの錠剤と簡易懸濁法による投与時の血中濃度比較. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
- 19) 藤原良次、橋本 謙、山田富秋、種田博之、小川良子、早坂典生、藤原 都、白阪琢磨. 血液製剤由来 HIV 感染者の心理的支援方法の検討. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
- 20) 白阪琢磨、橋本修二、川戸美由紀、日笠 聡、八橋 弘、岡 慎一、福武勝幸. 血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第1報 CD4 値、HIV-RNA 量と治療の現状と推移. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
- 21) 川戸美由紀、橋本修二、岡 慎一、福武勝幸、日笠 聡、橋本 弘、白阪琢磨. 血液製剤による HIV 感染者の調査成績 第2報 抗 HIV 薬の組み合わせの変更と CD4 値、HIV-RNA 量の関連性. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
- 22) 矢倉裕輝、中内崇夫、富島公介、山本雄大、湯川理己、新井 剛、廣田和之、伊熊素子、上地隆史、笠井大介、渡邊 大、西田恭治、吉野宗宏、上平朝子、白阪琢磨. エルビテグラビルおよびコピシタットの血漿トラフ濃度に関する検討. 第30回日本エイズ学会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.
- 23) 佐保美奈子、古山美穂、山田加奈子、高知恵、岡本友子、白阪琢磨. HIV サポートリーダー

養成研修 7年間のまとめ. 第30回日本エイズ学会
会学術集会・総会、2016年11月、鹿児島.

H. 知的財産権の出願・登録状況（予定を含む）

1. 特許取得

なし

2. 実用新案登録

なし

3. その他

なし